

小学校 外国語活動・外国語

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標



小・中学校すべての段階において「言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」を目指します。「言語活動」とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味します。情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用されることとなります。

【外国語活動】	【外国語】
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>
<p>(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。</p>	<p>(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</p>
<p>(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p>	<p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p>
<p>(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

【中学校外国語】
 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(以下省略)

小・中の連携を重視し、それぞれの目標を関連づけて段階的に目標を示しています。小学校までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、育成を目指す資質・能力を児童に身に付けさせることが大切です。



◆各言語の目標〔英語〕 第3・4学年

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。 イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。
話すこと (やり取り)	ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。 イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。
話すこと (発表)	ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

◆各言語の目標〔英語〕 第5・6学年

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
読むこと	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと (やり取り)	ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
話すこと (発表)	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、調順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、 <u>例文を参考に</u> 、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

◇外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
第3・4学年	○外国語への慣れ親しみ ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること ○外国語を聞いたり、話したりすること	○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力	○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて言語の大切さや、文化の違いに気付く ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 など
第5・6学年	○言葉の仕組みへの気付き(音、単語、語順など) ○聞くことに関する知識・技能 ○話すことに関する知識・技能 ○外国語を読んだり、書いたりすること	○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力	○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 など

外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である。

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

◇基本方針について

小学校中学年から外国語活動を導入し、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視する。

◇目標について

小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして国際的な基準などを参考に、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域で英語の目標を設定している。また、外国語科の目標については、学年ごとに示すのではなく、より弾力的な指導ができるよう、2学年間を通した目標とした。

◇内容について

外国語教育において育成を目指す三つの資質・能力を確実に身に付けられるように、小・中・高等学校を通じた領域別の目標の下で、体系的に構成を整理している。

②「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について

外国語によるコミュニケーションの中で、
どのような視点で物事を捉え、
どのような考え方で思考していくのかという

物事を捉える視点や考え方



外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに**着目して捉え**、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら**考えなどを形成し、再構築すること**

相手の立場や状況に配慮することは、多様な考え方や価値観をもった人たちと円滑にコミュニケーションを図る上で、とても重要な考え方です。初めて外国語に触れる小学校段階では、相手が話す外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、自分のもっている知識を総動員して相手や他者に外国語で自分の思いを何とかして伝えようとしたりする体験をさせましょう。

これらの経験を通して、言語でコミュニケーションを図る難しさや大切さを改めて意識させることが、言語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で重要であり、言語への関心を高めることにつながります。



③主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つ（三つ）の領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。

外国語教育における学習過程

- ① 設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し設定する
 - ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる
 - ③ 対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う
 - ④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う
 - ・ 学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、「思考力・判断力・表現力等」を高めたりする
- ※ 次のコミュニケーションにおける目的を設定する



◇ 「主体的な学び」の実現に向けた授業改善のポイント（例）

- ・ コミュニケーションを図る目的、場面、状況等を明確に設定する
- ・ 学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設ける
- ・ 発達の段階に応じて、子どもが興味・関心をもつ題材を取り上げたり、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定したりする

◇ 「対話的な学び」の実現に向けた授業改善のポイント（例）

- ・ 単元に、情報や考えや気持ちを他者と伝え合う活動を設定する
- ・ 他者の考えに触れて自身の考えを振り返ったり深めたりするよう促す

◇ 「深い学び」の実現に向けた授業改善のポイント（例）

- ・ 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱がバランスよく育成されるように年間指導計画・単元計画を作成する
- ・ コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確にした言語活動を設定する
- ・ 聞いたり読んだり、話したり書いたりする必然性のある言語活動を設定する

④ 移行措置について

外国語教育に係る 授業時数	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		移行期間		全面实施
第3・4学年	0	15～35	15～35	35
第5・6学年	35	50～70	50～70	70

- ・ 外国語活動については、新小学校学習指導要領の外国語活動及び外国語科の内容の一部を加えて必ず取り扱う。
- ・ 各学校が現行の教育課程に更に15単位時間の授業時数を加えて確保することが困難な場合など、外国語活動の授業時数の授業の実施のために特に必要がある場合には、総合的な学習の時間及び総授業時数から15単位時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができる。
- ・ 移行期間中における学習評価の在り方については、移行期間に追加して指導する部分を含め、現行小学校学習指導要領の下の評価規準等に基づき、学習評価を行う。
- ・ 移行期間における外国語活動に係る指導要録の取扱いについて

<第3・4学年>	総合所見及び指導上参考となる諸事項を記録する欄に、児童の学習状況における顕著な事項を記入するなど、外国語活動の学習に関する所見を文章で記述する。
<第5・6学年>	現在の取扱いと同様とし、外国語活動の記録の欄に文章で記述する。引き続き、数値による評価は行わない。評定も行わない。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 単元名 Unit5 My Summer Vacation 夏休みの思い出 (第6学年)

(2) 単元のねらい

- ・夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などを言ったり聞いたりすることができる。
- ・過去の表現が分かり、夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などを伝え合う。また、夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に自分の夏休みの思い出について話したことを、語順を意識しながら書いたりする。
- ・他者に配慮しながら、夏休みの思い出について伝え合おうとする。

(3) 言語材料

○I went to (my grandparents' place). It was (fun). I enjoyed (fishing).

It was (exciting).I saw (the blue sea). It was (beautiful).

○grandparent、vacation、動詞の過去形 (went、ate、saw、enjoyed、was)、自然 (beach、mountain、sea、lake、river)、動作 (hiking、camping、shopping、swimming、fishing)

(4) 該当する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ウ ゆっくりはつきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
読むこと	イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと (やり取り)	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
書くこと	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

【10の視点】

①魅力的な課題・
教示の設定

単元の初めには、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、児童と学習の見通しを立てることが大切です。そうすることで主体的な学びにつながります。

(5) 単元の指導計画

時	目標
1	夏休みに行った場所を言ったり聞いたりする。
2	夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所や感想などが分かる。過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。
3	過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。
4	夏休みに行った場所と食べた物、その感想を言ったり聞いたりする。
5	夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりする。
6	夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所、楽しんだこと、食べた物、感想が分かる。
7	夏休みの思い出について書かれた文を推測して読んだり、他者に配慮しながら夏休みの思い出について伝え合おうとしたりする。〈本時〉
8	自分の夏休みの思い出について話したことを、今まで書き写してきた文を参考に、語順を意識しながら書こうとする。

(6) 授業展開例 <第7時>

【本時目標】夏休みの思い出について書かれた文を推測して読んだり、他者に配慮しながら夏休みの思い出について伝え合おうとしたりする。

学習活動 ※【 】紙面化されている活動	指導・支援、留意点 ◇評価規準<方法>
<p>1 挨拶をする。 ・本時の見通しを持つ。</p> <p>2 Small Talk <話題>週末の思い出 *行った場所・楽しんだこと・感想 S1: I went to the shopping mall. I enjoyed watching a movie! It was fun. S2: That's nice. What movie? S1: Godzilla! How about you? S2: I went to Higashi Elementary School. I enjoyed baseball. It was OK.</p> <p>3 【Let's Read and Watch】 ・夏休みの思い出について書かれた英文を読む。その後、その英文が話されている映像資料を視聴して内容を確認する。 ・映像資料の音声に合わせて、英文を読む。その後、映像資料の音声を消して、映像資料の英文を再度読む。</p> <p>4 Let's Read and Write ・夏休みの思い出について、行った場所、食べた物、したことなど、前時までワークシートに書き写した文を読む。</p>	<p>・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・本時の学習の見通しを児童に持たせる。</p> <p>・左記の話題にした理由 (1) 前時の復習のため。 (2) 話題を「夏休みの思い出」から「週末の思い出」とし、似た話題について繰り返し対話することで過去形の表現の仕方が十分に分かり、聞いたり言ったりできるようにするため。</p> <p>・アイコンタクト、ジェスチャー、スマイル、レスポンス、表現等についてアドバイスする。 ・言い方などについて困ったことはないか確認する。</p> <p>T: Let's listen to the talk. <デジタル教材の英語> I went to the sea. I ate fresh fish. I enjoyed swimming. It was fun. ・児童の様子を見ながら、読む回数を調整する。 ◇夏休みの思い出について書かれた英文を読んで内容を理解し、その英文を書いた人物を選んでいる。 (記述観察)</p> <p>T: Look at your worksheet. Let's read the sentences you wrote. <誌面に書かれている文例> I went to the sea. It was fun. I went to the park. It was nice. I ate pizza. It was delicious. I enjoyed fishing. It was exciting.</p>
<p>5 【Activity】 ・来年の夏休みに一緒に過ごしてくれる仲間を増やすことを目的に活動する。 ・ペアで夏休みの思い出について伝え合う。相手を替えて繰り返す。</p> <div data-bbox="151 1720 587 1921" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>相手の理解を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止め、言葉を返しながら聞いたりすることが大切です。「相手意識」がポイントです。</p> </div> <p>6 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 挨拶をする。</p>	<div data-bbox="395 1420 1391 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実 これまで身に付けた知識や技能を活用して、友だちとの対話を通して情報をやり取りし、得られた情報を整理したり比較したりして、自分の情報を再形成させていきます。対話的な学びが大切です。</p> </div> <p>・コミュニケーションポイントを意識させる。 *相手の反応をみながら伝える *聞く側は、リアクションを返しながら聞く ◇I went to～. I ate～. I enjoyed ～ing. It was～. などを使って、夏休みの思い出について伝え合おうとしている。 (行動観察)</p> <div data-bbox="703 1774 1439 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ⑦学習評価の推進 一人一人の学習状況や実現状況を把握し、個に応じた手立てや支援を行います。本時の評価を次時に生かします。次時では、話したり、書いたりして表現させ、自分自身の学びの成長を実感させることが大切です。これらが「学びに向かう力、人間性等」の涵養につながります。</p> </div> <p>・本時のねらいに照らして児童を評価する。</p>

中学校 外国語

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

【中学校外国語】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語科の主たる目標は、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」ことである。そのために、(1)で「知識及び技能」、(2)で「思考力・判断力・表現力等」、(3)で「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を明確に示し、「各学校段階の学びを接続させる」とともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする、という視点から改善・充実が図られている。

◆各言語の目標〔英語〕 ※変更点のみ記載

話すことの領域が、「やり取り」と「発表」に分けられた。

話すこと (やり取り)	<p>ア <u>関心のある事柄</u>について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ <u>日常的な話題</u>について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p> <p>ウ <u>社会的な話題</u>に関して<u>聞いた</u>たり<u>読んだ</u>りした<u>こと</u>について、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p>
話すこと (発表)	<p>ア <u>関心のある事柄</u>について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</p> <p>イ <u>日常的な話題</u>について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。</p> <p>ウ <u>社会的な話題</u>に関して<u>聞いた</u>たり<u>読んだ</u>りした<u>こと</u>について、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。</p>

- * 「関心のある事柄」から「社会的な話題」まで扱うことで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などをより幅広く設定することを可能にしています。
- * ウでは、「聞くこと」「読むこと」という、他の領域の言語活動と有機的に関連付けた、統合的な言語活動を視野に入れた目標が設定されています。
- * その他の領域についても、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成する目標を、段階的にア～ウの3項目で設定しています。



(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

◆基本方針について

外国語でコミュニケーションを行うために必要な資質・能力を育成するために、小学校の学びとの接続を意識しながら英語の目標を設定した。また内容においては、関心のある事柄から日常

的な話題や社会的な話題まで取り上げて幅広いコミュニケーションを図ることを可能にするため、対話的な言語活動を重視し、学習した語彙や表現等を実際に活用する活動を充実させることで、言語活動の実質化を図った。

◆内容について

- ・互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層重視する観点から、「話すこと[やりとり]」の領域を設定するとともに、言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げ、語、文法事項などの言語材料を効果的に関連付けた言語活動とするなどの改善・充実を図った。
- ・取り扱う語数について、小学校で学習する600～700語に加え、現行の「1200語程度の語」から五つの領域別の目標を達成するための言語活動に必要な「1600～1800語程度の語」に改訂した。
- ・文、文構造及び文法事項について、表現をより適切でより豊かにするなどの目的で、「仮定法のうち基本的なもの」や「現在完了進行形」など数項目を追加した。

◆指導について

- ・小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするために、指導計画の作成に当たっては、語彙、表現などを異なる場面の中で繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する力を高める。
- ・言語材料については、発達の段階に応じて、生徒が受容するものと発信するものがあることに留意して指導する。
- ・授業は英語で行うことを基本とする。

②見方・考え方について

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。「見方・考え方」の育成には、次のようなことが重要である。

- ◇社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解したりするなどして相手に十分配慮すること
- ◇多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念(知識)を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすること
- ◇適切な言語材料などを活用し、思考・判断して、情報を整理するとともに、自分の考えを形成、再構築すること



このような「見方・考え方」を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、生徒の発達段階に応じて「見方・考え方」を豊かにすることが求められています。

③主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

主体的・対話的で深い学びを実現させるには、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行うことが重要である。そのため、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を設定し、生徒が理解し、外国語で表現し伝え合う力を育成するための学習過程の改善・充実を図る必要がある。

◆外国語教育における学習過程

次の①～④の流れを踏まえ、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで「思考力・判断力・表現力等」を高めていくことが大切である。

- | |
|---|
| ①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等の理解 |
| ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる |
| ③対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う |
| ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う |

◆「主体的・対話的で深い学び」について、授業改善を図る視点（例）

主体的な学び	主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどのように設定するか
対話的な学び	対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどのように設定するか
深い学び	学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は、全く新たな学習活動を取り入れる趣旨ではなく、これまで行われてきた学習活動の質を向上させることを主眼とするものであり、以下のことに留意する。

聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く目的や場面、状況などを意識した活動とすること ・自然なコミュニケーションを意識した活動を考えること
話すこと	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かなやり取りを通して言葉の学習を促し、それを発表できる力へと育てること ・最初から流暢かつ正確な言葉遣いで応答できることを求めすぎないこと ・十分な準備をしてから発表するといった一定の型にこだわり過ぎず、即興的なやり取りの機会を十分に確保すること
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・未知語の意味や発音を指導したり、文構造や文法事項を説明したりすることに過度に時間をとられるのではなく、そこで伝えられる意味内容に留意し、生き生きとした言語活動を展開すること
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ※「読むこと」や「書くこと」も、それが意味の伝達を重視している限りは、双方向の交流があるコミュニケーション活動である ・何のために書くのかという目的や、誰に対して書くのかという読み手意識がもてるように、活動の提示方法、流れ、目標などを十分に考えて行うこと

※「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「読むこと」及び「書くこと」という五つの領域にわたる活動を、できるだけ有機的に関連させながら指導計画を考えることが重要である。

④移行措置について

なし。ただし、中学校移行期間（平成30～32年度）のうち、平成31・32年度の1・2年生については、授業時間は追加せず、小学校・高等学校との接続の観点から知識・技能について新たに追加した内容と、それを活用して行う言語活動を計画的に指導する。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 単元名 Program 11 Yui — To Share Is to Live. (第2学年[Sunshine English Course 2])

(2) 単元の目標

- ・受け身表現の文構造やその運用についての知識を身に付ける。
- ・自分が住んでいる町やおすすめの観光地を、考えを整理したり、話す内容の構成を工夫したりしながら紹介する。
- ・英語を用いて自分が紹介したい場所の魅力を伝えようとする。

(3) 単元の指導計画


時	ねらい	主な学習活動
第1時	○受け身表現を用いた現在時制の文構造と運用を理解する。	・教科書本文を通して、受け身表現（現在）を理解する。 ・教科書本文から紹介する時に活用できる表現を探す。
第2時	○受け身表現を用いた過去時制の文構造と運用を理解する。	・教科書本文を通して、受け身表現（過去）を理解する。 ・教科書本文から紹介する時に活用できる表現を探す。
第3時	○町や観光地を紹介する時の表現を理解する。	・町や観光地を紹介する時に使われる教科書の表現をまとめる。
第4時 (本時)	○町や観光地を紹介する練習をする。	・ペアで町や観光地を紹介し合う。 ・グループで町や観光地を紹介し合う。
第5時	○町や観光地を紹介する。	・学級全体に対して町や観光地を紹介するスピーチ大会をする。

【10の視点】
①魅力的な課題・教材の提示

生徒の実際の生活場面に即したコミュニケーションの目的や場面、状況など、身近で取り組みたいような課題を提示し、意欲付けを行いましょ。

(4) 授業展開例 <第4時>

【本時のねらい】 ペア・グループでの活動において、主体的に英語を用いて自分が紹介したい場所の魅力伝えようとしている。

学習活動	指導・支援、留意点
1 本時の目標と活動の流れを確認する。	・本時の学習の見通しを持たせるため、目標と活動の流れを提示する。
2 各自で紹介の練習をする。	・教師がデモンストレーションをして、発表の具体的なモデルを示す。 ・スピーチ大会の評価規準を示し、発表のポイントを伝える。 (声の大きさ、明瞭さ、発音、流暢さ、視線、など) その後、各自で10分練習する。
 <p>個人練習の時間を確保し、自信や意欲を持たせることが、主体的な学びにつながります。</p>	
3 ペアで町や観光地を紹介し合う。	・教室をまわり、よくできているペアを把握し、発話の様子を学級で共有できるようにする。 ・全体が終わったら3つのペアに発表させる。 ・ <u>ペアで話し終わったらお互いに感想とアドバイスを伝え合い、それを踏まえて再度3分練習をする。</u>
	<p>【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実</p> <p>お互いの発表を聞き合うことを通して、自分の表現と比較したり、表現を再構築したりする機会を作ることが大切です。</p>
4 <u>グループで町や観光地を紹介し合う。</u>	・4人グループ内で一人ずつスピーチを行う。 ・全員が終わったらお互いに感想とアドバイスを伝え合い、それを基に次の時間に改善したいポイントなどを各自で考える。
	<p>【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実</p> <p>その時間や単元の終わりに、学習の成果を発表する機会をもつなど、学んだことを総合的に活用する言語活動を設定することが大切です。</p>
5 本時の活動を振り返る	・生徒の活動全体を通して、よかったところを具体的に褒める。 ・より良いスピーチになるよう、気づいた点を簡潔に伝える。